

弘前大学学報



弘前市 文京町

第 34 号
平成19年1月号

学内ニュース

- 平成19年 年頭挨拶 学長 遠藤正彦 ----- 1
- 平成19年度大学入試センター試験実施 ----- 5
- 平成18年度弘前市私費留学生就学援助金支給決定書授与式 ----- 6

学 事

- 外国出張 ----- 7

諸 会 議

----- 9

人 事

- 人事異動 ----- 12

主要日誌

----- 14

学内規則

----- 15

- 国立大学法人弘前大学パートタイム職員就業規則の一部改正
- 国立大学法人弘前大学契約職員等給与規程の一部改正
- 弘前大学における講座に関する規程の一部改正

平成19年 年頭挨拶

平成19年1月4日

弘前大学長 遠藤正彦



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。仕事納めの日には雪もなくこのまま越年かと思われましたが、年末には、少ないながらも雪が降りました。どうやら雪のない正月となりました。やはり雪国津軽の正月には、雪があった方が良くないかと思ひました。皆さんも、おだやかな新年をお過ごしだったと思ひます。

〔明るい平成19年〕

さて年頭に当たり、学長として所信を述べたいと思ひます。

まず、この平成19年はどのような年かと予想しますと、年末仕事納めのとき申し上げました様に、教職員の努力の結果、本学の評価が高まりつつあり、それを表すように、平成19年度は希望の持てる予算内示が得られました。したがって、“明るい希望の持てる年”だと思ひます。

〔平成19年の最重要課題〕

平成19年は希望の持てる年だと申しましたが、しかし、国立大学法人として4年目となります弘前大学にとりましては、また大変厳しい状況も待っております。

このことについて、これから本学が本年直面する重要課題とその対応について概略を申し述べたいと思ひます。

本年は、まず国立大学法人として、平成18年度に関しての実績報告書と財務諸表の作成、そして平成19年度の年度計画の策定があり、それらは例年通りであります。大変な作業であります。しかし、本年は、特に平成20年度に実施されることが決定しております暫定評価の準備にかからねばなりません。準備と申ししましても、中期目標・中期計画に記載されている全事項を、第1期期間中に完遂させるという見通しの立てられるところまで軌道にのせることにあります。特に本学で遅れを取っている教職員の評価については、平成19年より、いよいよ本格的実施に向けて動き出すこととなります。

この暫定評価の結果が、本学の第2期中期目標・中期計画へ向けての資源配分に反映されることとなりますので、教職員一同の格段の御協力をお願い致します。

〔経費節減を中心とした財政〕

大学の財政は厳しいもので、それは年を追うごとに厳しさを増すこととなります。しかし、平成19年度、厳しいながらも希望の持てる予算内示を受けたことをバネとして、経費節減を基調とした確実に健全な大学運営を図りたいと思ひます。それには、教育関係経費の完全確保と、インセンティブを強化した研究経費の配分とが、中心となります。管理運営に関しては、かなりの節減を図らなければなりませんので、教職員の御理解と御協力をお願い致します。

〔人件費抑制への対応〕

本学の経費節減という厳しい状況に加えて、本年よりいよいよ5年5%の総人件費抑制策が実行に移されます。このため、管理運営の効率化と簡素化が一層求められることになり、これもまた実行に移さなければなりません。そのため、本学では現在、学外に委託して管理運営の評価をうけております。この評価結果を元に、機構業務の改善・改革及び事務系職員の大規模配置転換をこの4月1日付で実施する予定ですので、教職員の全面的御理解と御協力をお願い致します。特に、教育と研究を確保するという意味から、旧国立大学の体制からの脱皮が喫緊の重要課題であることへの御理解をお願い致します。

〔教育研究組織の見直し〕

人件費抑制に対しては、教職員全体にかかる問題であり、各学部等及び事務部全体とその対応について詰めの協議をしているところであります。また、本年4月1日より教員の職名変更と役割の変更が行われることが決定されております。これらのことから当然、各学部ごとに教育カリキュラム、教育研究体制、管理運営等、大幅な見直しが必要であります。このことは、それぞれの学部等の活力の低下をきたさないことは当然であり、それ以上に現在より更に魅力ある学部等への再構築に向かったの努力を重ねられるよう、強く希望します。

幸い本年4月から、大学院医学系研究科が改組され、大学院医学研究科と大学院保健学研究科とに分離し、保健学研究科に博士後期課程が新設されます。これに合わせて、この4月より本学の大学院の部局化を実施し、理工学部は大学院理工学研究科に、医学部医学科は大学院医学研究科に、保健学科は大学院保健学研究科にその主力を移し、大学院地域社会研究科と共に大学院の部局化が行われ、それぞれの学部教授会から新たに組織される大学院教授会にその管理体制の主体が移ります。

これらの学部の他、人文学部、教育学部、農学生命科学部にはそれぞれ大学院修士課程が直結していることから、本学は正に大学院大学であります。

したがって、全大学院・全学部及びその構成員は、大学院大学にふさわしい目標と自覚を持って、教育の展開と世界に光を放つ研究の展開をされるのは当然であります。これを推進する意味で、本学の附置の施設・センターの統合や学部移管の計画を進めておりますが、今後共、関係者の御意見を反映させるべく協議してまいります。

〔教育〕

本学が大学院大学に転進するといっても、学生の教育そのものが変わるわけではありません。学生の教育そのものについては、むしろ少子化による大学全入時代の到来から、入学志願者定員割れへの懸念と、学生の学力低下という現実、我々は直面しております。

さて、この状況にどう対応するかは、我々にとって極めて重要且つ大きな課題であります。先にお話しした、教員組織の見直しに合わせて進められる教育カリキュラムの見直しと共に、教育の質の向上を図ることが、強く求められるところであります。

本学が内外に、学生の質を保証すると公言していることをより確かなものにするため、教養教育と専門基礎の充実に向かって、特段の熟慮と工夫と実行をお願い致します。このことに関して、現在出版会下に、本学教員による本学学生の教科書出版が進められており、年内にそのうち数冊が刊行されると伺っており、これは本学教育の大きな力となりましょう。

また、幸い学生におきましては、就職のモチベーションの向上からの就職率の向上、課外活動の活発化等、学生の質の向上を示す様々な好材料が揃ってきました。そのことに大いに期待したいと思っております。

〔研究の推進〕

只今申し上げましたように、本学は研究にも軸足のある大学院大学になります。幸い昨年の全世界の論文ランキングでは、世界の 900 位から 1000 位の間にも名を連ねることができました。本年は、この本学の研究に一段と“冴”を増させるよう、研究の推進に向けて手当を強化してまいります。

第 1 に大学全体としては、学長指定重点研究、機関研究等において研究費の重点配分の強化が図られることとなります。このことにより、中期目標・中期計画に明記されている世界に輝く先端的研究、時代を先取りする基礎的研究、そして地元に着目した研究が、いよいよ実のあるものとして具体化されるものと思います。

第 2 には機器分析センターの強化であり、そのため本年の大型機器の導入は既に決定されております。今後の大型機器の導入に向けて、大学院理工学研究科、農学生命科学部、大学院医学研究科及び保健学研究科においては、機器導入のための共用スペースの確保が特に必要となります。また、文系教員の研究推進のためには、附属図書館及び出版会の充実を図ってまいります。

また、全教員には文部科学省等の科学研究費補助金の全員申請、そして採択率アップの方向で、特段の努力をお願い致します。このことにより、低迷している本学の文部科学省の科学研究費の採択等に関するランキングにおいて、その向上を特にめざしたいと思しますので、本学教員はこのことを義務と捉えて対応をお願い致します。

〔産学官連携 社会連携〕

地方にある大学としましては、存立する地域での産学官連携や社会貢献が、大学の存亡と発展に深く関わっていることは論を持たず、国立大学法人化して、その重要性は一層際立ってきたところではあります。

弘前大学は昨年、青森県及び弘前市と包括協定を結びました。本年は、これを具体化していくことにあります。これを機会に、地域に根ざした、そして地域に開かれた大学として、特徴ある新しい展開を図ってまいりますので、教職員の皆さんからの御提案をお願い致します。

また今年には、地域共同研究センター創立満 10 周年になります。これを機に同センターは、新しいセンターとして脱皮してゆくこととなります。これに合わせて本年、同センター創立満 10 周年の記念事業を展開してまいります。もって地域の活性化の一助になればと考えておりますので、全学的御協力をお願い致します。

〔附属病院〕

最後に医学部附属病院の問題に触れますと、本学医学部附属病院は、ベッド数 600 床クラスの附属病院としてみると、後背地の人口や地域経済から、全国の国立大学法人の同規模の附属病院としては、その経営は最も厳しい状況の中にあります。このことを踏まえて、本学の附属病院は新しい病院の経営・運営の体制確立を図らなければなりません。関係者が一層の英知を出し合って、本学に見合った新しい戦略をたてるよう、特段の努力を切に求めます。

〔最後に〕

以上、本年・平成 19 年の重要課題とその対応について概略を申し述べました。全国の国立大学法人は、既に評価と競争の真っ只中にあります。とはいえ、本学が国立大学法人化した当時の本学の持てる資源の少なさ、例えば、教職員数、学生数、キャンパス面積、知的財産等の少なさがある上に、立地としての地域の産業経済基盤の脆弱さと、中央との地域間格差がそこには厳然として存在します。すなわち、本学は大変なハンディを背負っていることとなります。

とはいえ、これを嘆いていても始まりません。現在の本学の資源に合った状況、言い換えれば、身の丈にあった活動というものがあると思っております。すなわち、青森県師範学校から数えて 130 年の歴史と伝統と大学院の 7 研究科を擁する中規模総合大学院大学

としての特性を生かして、その身の丈に合った発展をめざして、本学の真の発展があるものと私は考えます。

学生の就職率の向上、課外活動の活発化から学生の質の向上がうかがわれ、教員の研究レベルの向上も確実なものとなり、地域住民の大学への関心も高まり、地域連携の評価も高まり、またキャンパスの整備も進んでいます。新年になってお会いしたお二人の市民から、弘前大学は大変きれいになったとのお褒めの言葉もいただきました。いよいよ、国立大学法人化としての本学の姿と進む方向もはっきりしてきたと思います。

これらのことを、本学の進む明るい方向という認識に変えて、ここ一年、暫定評価への確固たる申請書がまとめられるよう、教職員一同の集中的御協力を切にお願い致します。

以上をもちまして、学長の平成19年年頭の所信と致します。

平成19年 1 月 4 日

平成19年度大学入試センター試験実施

平成19年度大学入学者選抜大学入試センター試験が、1月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり全国一斉に実施されました。県内では弘前大学、青森県立保健大学、青森公立大学、青森大学、青森大学田名部高等学校会場、青森中央学院大学、八戸大学、八戸工業大学及び北里大学獣医畜産学部の9試験場で実施されました。

この後、本学の個別学力検査は、前期日程試験が2月25日(日)、26日(月)(合格発表は3月7日(水))、後期日程試験が3月12日(月)(合格発表は3月22日(木))に実施されます。

なお、本学が担当した大学入試センター試験の志願者及び受験者は、次のとおりです。

◇平成19年度大学入試センター試験 弘前大学試験場 教科別受験状況

担当学部：人文学部、教育学部

志願者数：1,446 人

1 日 目	科 目	公 民	地理歴史	国 語	外国語(筆記)	英語リスニング
	受験しなかった者	289	411	83	72	76
	受 験 し た 者	1,157	1,035	1,363	1,374	1,370
	受 験 率	80.0%	71.6%	94.3%	95.0%	94.7%

2 日 目	科 目	理科①	数学①	数学②	理科②	理科③
	受験しなかった者	586	143	276	577	964
	受 験 し た 者	860	1,303	1,170	869	482
	受 験 率	59.5%	90.1%	80.9%	60.1%	33.3%

平成18年度弘前市私費留学生就学援助金支給決定書授与式

平成19年1月22日（月）午前11時から事務局大会議室にて、平成18年度弘前市私費留学生就学援助金支給決定書授与式が行われました。この援助事業は、弘前市が私費外国人留学生の経済的負担の軽減及び修学環境の整備を図り、もって国際交流及び国際親善に寄与することを目的としており、前期、後期に本学から約40名の留学生が月額15,000円の援助を受けています。当日は、後期分の就学援助金受給が決定した留学生40名のうち、13名が出席しました。授与式では、高畑弘前市助役から留学生一人一人へ支給決定通知書が手渡され、本援助金を勉学に生かして頑張してほしい旨、激励の言葉がありました。続いて、留学生を代表して教育学部4年 呉 芷伊さんが、援助金に支えられて無事卒業できることを心より感謝していますと御礼の挨拶を述べました。

続いて、遠藤学長から弘前市へ留学生支援に対する御礼が述べられ、留学生には、母国へ帰国後も弘前市で学んだ経験を生かして頑張してほしい、そして弘前のことを広く紹介してほしいとの言葉がありました。

留学生は本援助事業の意義を改めて感じたようでありました。



外国出張

職名	氏名	渡航目的	目的国	期間
助教授 (人文)	黄 孝春	研究課題に関する現地聞き取り調査および研究交流のため	中華人民共和国	18. 12. 23 } 19. 1. 8
助教授 (人文)	森 樹男	「知識創造型産業を活用した日本の地方都市経済活性化の研究～北欧の地方都市における産業創造システムの応用～」に関するフィンランド調査のため	フィンランド共和国	19. 1. 12 } 19. 1. 20
助教授 (人文)	城本 るみ	現代中国の高齢者福祉と社会保障制度に関する研究の本年度の海外学術調査および研究のための資料収集	中華人民共和国	19. 2. 8 } 19. 2. 13
助教授 (人文)	羽瀨 一代	韓国の趣味的中間集団参加者へのインタビューおよび調査委託先候補(ギャロップ社)との打ち合わせ	大韓民国	19. 2. 12 } 19. 2. 14
助教授 (人文)	羽瀨 一代	ケニアにおけるメディア利用に関わる研究の本年度の海外学術調査および研究のための資料収集	ケニア共和国	19. 2. 24 } 19. 3. 11
助手 (病)	横山 仁	シンガポールライブ2007出席	シンガポール共和国	19. 1. 21 } 19. 1. 25
助手 (理工)	種田 晃人	第5回アジア太平洋生命情報学会議にて研究成果発表	中華人民共和国	19. 1. 14 } 19. 1. 18
教授 (農生)	澁谷 長生	タイにおける米の流通と消費に関する補足調査ならびに資料収集	タイ王国	19. 1. 3 } 19. 1. 9

職名	氏名	渡航目的	目的国	期間
助教授 (農生)	石川 隆二	ナショナルバイオリソースプロジェクト 「イネ近縁種，栽培種のデータ化と種子増殖」に関するイネ遺伝資源の中国在来種データ収集	中華人民共和国	19. 1. 4 ～ 19. 1. 10

■ 諸 会 議

▼役員会

1月 9日 (火)

審議事項

- 1 教員の業績評価の教育研究評議会への付議について
- 2 教育基本法改正に伴う学則の一部改正の教育研究評議会への付議について
- 3 国立大学法人弘前大学パートタイム職員就業規則等の一部改正について
- 4 「国立大学法人弘前大学予算配分方針(案)」の経営協議会への付議について

報告事項

- 1 決算剰余金の繰越承認について

1月15日 (月)

審議事項

- 1 教員組織の整備に関する基本方針(案)について
- 2 中期目標・中期計画の変更について
- 3 国立大学法人弘前大学予算配分方針(案)について
- 4 平成18年度内部監査の監査結果への対応について
- 5 学部附属施設・センターの中間評価について

報告事項

- 1 学内共同教育研究施設(大学附置センター等)の改組について

1月22日 (月)

審議事項

なし

報告事項

- 1 国立大学法人弘前大学予算配分方針について
- 2 平成18年度戦略的経費等執行計画について
- 3 大学入試センター試験について

1月29日 (月)

審議事項

- 1 平成19年度国立大学法人弘前大学年度計画(原案)について
- 2 弘前大学創立60周年記念事業運営委員会(仮称)要項の教育研究評議会への付議について
- 3 弘前大学留学センター教員選考に係る選考委員会の組織について

報告事項

- 1 グローバル COE プログラム申請テーマ等について
- 2 訴訟事件の報告について
- 3 第2体育館からの落雪による事故について

▼教育研究評議会

1月 9日 (火)

審議事項

- 1 教員組織の整備に関する基本方針(案)について
 - 2 中期目標・中期計画の変更について
-

-
- 3 その他
- 報告事項
- 1 教員人事について
 - (1) 教員の採用・昇任
 - 2 平成19年度文部科学省各種公募事業について
 - 3 平成19年度総合文化祭の実施日及び休講措置について
 - 4 委員会報告
 - (1) 21世紀教育センター運営委員会
 - (2) 教育・学生委員会
 - (3) 入学試験委員会
 - (4) 社会連携委員会
 - 5 その他

▼教育・学生委員会

- 審議事項
- 1 仮称「教育者総覧（教育活動自己評価申告記録）」について
 - 2 高大連携公開講座の実施について
 - 3 学則及び大学院学則の一部改正について
 - 4 学生表彰の選考について
 - 5 その他

- 報告事項
- 1 大学院設置基準の一部改正への対応について
 - 2 教育・学生委員会審議事項について
 - 3 その他

▼21世紀教育センター運営委員会

- 審議事項
- 1 弘前大学21世紀教育センター規程の一部改正について
 - 2 弘前大学21世紀教育履修規程の一部改正について
 - 3 弘前大学21世紀教育科目における「放送大学との単位互換」の単位認定に関する規程の一部改正について
 - 4 弘前大学21世紀教育センター運営委員会内規の一部改正について
 - 5 弘前大学21世紀教育センター運営委員会企画会議要項（案）について
 - 6 平成19年度学外非常勤講師資格審査について
 - 7 平成19年度非常勤講師による授業計画について
 - 8 平成19年度ティーチング・アシスタントによる授業計画について
 - 9 平成19年度履修マニュアルについて
 - 10 平成19年度21世紀教育の運営等に係る経費について
 - 11 その他

- 報告事項
- 1 センター長報告
 - 2 専門委員会報告
 - (1) 教務専門委員会
 - (2) FD・広報専門委員会
 - (3) 点検・評価専門委員会
 - 3 各種委員会報告
 - (1) 教育・学生委員会

-
- (2) 第57回東北・北海道地区大学一般教育研究会準備委員会
- 4 科目主任会報告
 - 5 その他の報告

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1		佐々木 真 吾	助手(医・医)[23. 12. 31まで]
19. 1. 1		江 渡 修 司	助手(医・医)[23. 12. 31まで]
19. 1. 1		畑 山 佳 臣	助手(病院)[23. 12. 31まで]
19. 1. 1		小 崎 牧 子	看護師(病院)
19. 1. 1		川 崎 綾 乃	看護師(病院)[19. 3. 31まで]
19. 1. 4		北 山 佳 子	教諭(附幼)[19. 5. 31まで]

[昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1	講師(病院)	富 山 誠 彦	助教授(医・脳研)[21. 3. 31まで]
19. 1. 1	助手(医・医)	宇 野 司	講師(医・医)

[配置換]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1	助手(医・脳研)	村 上 千 恵 子	助手(病院)[23. 12. 31まで]

[任用更新]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1	助手(医・医)	成 田 浩 司	19. 4. 1まで

[任命]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1	教授(理工)	倉 坪 茂 彦	評価室室員(免)
19. 1. 1	教授(理工)	宮 永 崇 史	評価室室員(免)
19. 1. 1	教授(理工)	氏 家 良 博	評価室室員(20. 3. 31まで)
19. 1. 1	教授(理工)	匂 坂 康 男	評価室室員(20. 3. 31まで)

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 1	助手(医・医)	佐々木 早 苗	19. 4. 1まで更新

[退職・辞職]

発令年 月日	現職(所属)	氏名	異動内容
19. 1. 31	講師(病院)	岡田元宏	辞職

■ 主要日誌

- 1月4日 仕事始め
新年互例会
- 5日 大学入試センター試験事務担当者説明会
学長オフィスアワー
大学入試センター試験監督者説明会
平成18年度退職準備説明会
- 9日 役員会
運営会議
教育研究評議会
- 10日 学長定例記者会見
- 11日 業務改善案監督者研修
- 15日 経営協議会
役員会
- 16日 教員業績評価に関する説明会
- 18日 学長オフィスアワー
教員業績評価に関する説明会
- 20日 大学入試センター試験
- 21日 大学入試センター試験
- 22日 役員会
- 29日 一般選抜，私費外国人留学生願書受付（～2/6）
役員会
- 30日 学長選考会議

■ 学内規則

(平成19年1月9日改正)

医員をパートタイム職員として雇用する必要があるため、以下の規則等の一部を改正した。

- 国立大学法人弘前大学パートタイム職員就業規則
- 国立大学法人弘前大学契約職員等給与規程

(平成19年1月10日改正・平成19年2月1日施行)

大学における「がん化学療法」を専門とする研究体制の整備が提唱されていること等に鑑み、医学部医学科に「腫瘍内科学講座」を新設するため、以下の規程の一部を改正した。

- 弘前大学における講座に関する規程の一部改正

弘前大学学報第34号

弘前大学総務部総務課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172)36-2111